

事業コード	H18-建-継-17		区 分	国庫補助 県単独
事業名	地方道路交付金事業費		部局課室名	建設交通部 道路課
事業種別	一次改築(バイパス)		班 名	県道・市町村道班 (tel) 018-860-2493
路線名等	(主) 鷹巣川井堂川線		担当課長名	檜森悦朗
箇所名	北秋田市芹沢		担当者名	主幹(兼)班長 木村正
総合計画との関連	政策コード	U	政策名	交流・連携と生活を支える交通基盤の整備
	施策コード	04	施策名	地域内交通ネットワーク・生活圏交通の整備
	指標コード	02	施策目標(指標)名	県道改良率

1. 事業の概要

事業期間	H13 ~ H19 (7年)	総事業費	12.0億円	国庫補助率	-	
事業規模	延長L=1,070m 幅員W=6.0(11.0)m					
事業の立案に至る背景	<p>本路線は、新合併市である北秋田市中心部と周辺の合併関係町村や秋田市を最短で連絡する路線であるとともに、あきた北空港へのアクセス道路であり国道285号の代替路線となる重要な路線である。</p> <p>しかし、人家連担地域である当該地区の現道は幅員狭小(車道幅員4.5m)で線形も悪く、大型車のすれ違いが困難であり、冬期交通の安全性が確保されていない。また、通学路でありながら歩道もなく、交通安全上大きな問題を抱えている。このため、経済・産業活動の活性化を図るとともに、生活道路としての利便性向上のため、道路整備を行うものである。</p>					
事業目的	<p>安全な生活環境の確保(通学路における歩道未整備の解消)</p> <p>道路の防災対策・危機管理の充実(老朽橋架替)</p> <p>物流の効率化の支援(あきた北空港、大野台工業団地)</p> <p>冬期末改良区間の解消</p>					
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)		計 画 時	評 価 時	増 減	理 由 等	
	事業費	1,255,000	1,193,000	-62,000		
	経費内訳	工事費	888,000	839,000	-49,000	道路盛土材の流用等
		用補費	240,000	229,000	-11,000	
		その他	127,000	125,000	-2,000	
	財源内訳	国庫補助	0	0	0	
		県債	1,129,000	1,073,000	-56,000	
その他		0	0	0		
一般財源	126,000	120,000	-6,000			
事業内容	調査・設計 用地買収補償 橋梁工 改良舗装工	調査・設計 用地買収補償 橋梁工 改良舗装工				
事業の進捗状況	用地買収及び改良工、橋梁工が完了しており、平成18年度供用予定である。 (平成19年度は旧橋撤去工である。)					
事業推進上の課題	特になし					
関連する計画等	あきた21総合計画における「地域内交通ネットワーク・生活圏交通の整備」を支援する事業 (仮)北秋田市民病院建設事業					
情勢の変化及び長期継続の理由	平成17年3月22日に鷹巣町・森吉町・阿仁町・合川町が合併し、北秋田市となった。					
事業効率把握の手法及び効果	指標名	路線冬期幅員確保率				
	指標式	冬期幅員確保率(幅員確保済延長/路線実延長)				
	指標の種類	成果指標	業績指標	低減指標の有無	有 無	
	目標値 a	53.1 %		データ等の出典	道路現況調書	
	実績値 b	49.1 %				
達成率 b/a	92.5 %		把握の時期	平成18年7月		

前回評価結果等	選定または継続 改善 見直し 保留または中止
	指摘事項
	特になし
	指摘事項への対応
	特になし

2. 所管課の自己評価

観 点	評 価 の 内 容 (特 記 事 項)	評 価 点
必 要 性	当該区間は、幅員狭小（車道幅員4.5m）及び線形不良（最小曲線半径60m）で冬期堆雪幅が確保されておらず、道路構造上の欠陥箇所が多数存在する。 通学路指定路線であるが歩道がなく、通学児童をはじめ地域住民の安全確保のため早急な整備が必要である。	10点
緊 急 性	芹沢橋は昭和32年架設の老朽橋であり、劣化・老朽化が顕著であるうえ設計強度及び耐震力が大幅に不足している。さらに、当該路線の交通需要も増加傾向（H11:2,233台→H17:2,268台）にあることから、早急な道路整備が必要である。	12点
有 効 性	県の「生活圏30分形成道路」のボトルネックとなっている区間であり、あきた北空港及び北欧の杜公園、大野台工業団地のアクセス道路としても位置付けられていることから、整備後の有効性は高い。 建設計画のある（仮）北秋田市民病院（平成21年開院予定）へのアクセス道路となることから、地域の救急医療を支える重要路線である。	30点
効 率 性	事業の費用便益比は、1.31であり効率性は高い。 ・総費用の現在価値 1,315百万円 ・総便益の現在価値 1,717百万円 計画日交通量は、2,590台となっている。 事業費については、道路盛土材を他工区からの流用土としてコスト縮減に努めている。	20点
熟 度	平成18年度供用予定であり、事業進捗の熟度は高い。	20点
判 定	ランク () 生活圏30分形成道路として位置付けされており、「緊急性」「有効性」「効率性」「熟度」の項目で評価点が高く、平成18年度供用予定であることから、平成19年度の旧橋撤去工を引き続き実施すべき事業である。	92点
総 合 評 価	継続 改善して継続 見直し 中止 事業継続は妥当である。	

3. 評価結果の当該事業への反映状況等（対応方針）

引き続きコスト縮減に留意しながら、事業を継続する。

4. 公共事業評価専門委員会意見

県の対応方針を「可」とする。

評価種別 継続箇所評価

事業コード(H18-建-継-17)

適用基準名 道路改築事業(地域内・生活圏交通促進)

箇所名 (北秋田市芹沢)

1. 評価内訳

観点	評価項目 細別	評価基準	配点	評価点	摘要	
必要性	道路の現状の問題					
	道路構造上の欠陥箇所数 ・車道幅員 < 5.5m ・最小半径 < 100m ・最急勾配 > 5% ・冬期堆雪巾なし	3箇所以上 2箇所 1箇所 0箇所以上	8 6 4 0	8		
	道路環境上の欠陥該当項目 ・現道の混雑度 1.0 ・現道の旅行速度 30km/h ・現道の事故率 50件 ・通学路指定で歩道なし ・重大交通事故が発生	5件該当 4件該当 3件該当 2件該当 1件該当 該当項目なし	7 6 5 4 2 0			2
	計		15	10		
	緊急性	道路をとりまく環境等				
		関連事業の有無 ・県の主要プロジェクト ・地域振興プロジェクト ・ほ場整備等の他事業	あり なし	4 0	4	
		市町村合併支援道路	位置づけあり 位置づけなし	3 0		
		交通量	増加している 増加していない	3 0	3	
		特有の課題の有無 老朽橋、災害危険箇所、 冬期通行不能区間等	あり なし	5 0		
		計		15	12	
有効性		道路の位置づけ				
	生活圏30分形成道路等	該当する 該当しない	7 0	7		
	救急医療施設へのアクセス道路	該当する 該当しない	7 0			
	地域防災計画画重要な道路	該当する 該当しない	7 0	7		
	社会変化による事業の必要性	必要性が高い 低下傾向 必要性が低い	9 6 3			
	計		30	30		
効率性	事業の投資効果等					
	費用便益比(B/C)	1.0以上 0.5以上~1.0未満 0.5未満	5 3 0	5		
	計画交通量	1,000台/日以上 500台/日以上~1,000台日/未満 300台/日以上~500台日/未満 300台/日未満	5 4 3 0			
	コスト縮減	あり なし	5 0	5		
	事業中止による影響	既投資額の損失大 既投資額の部分的損失 既投資額の損失が少ない	5 4 3			
	計		20	20	e t c 大規模バイパス e t c 部分的ミニバイパ e t c 現道拡幅	
	熟度	事業の進捗進捗状況				
事業の進捗(事業費)		8割以上完了 5割以上完了 1割以上完了 1割未満	10 8 5 2	10		
用地買収の進捗(面積)		8割以上完了 5割以上完了 1割以上完了 1割未満 未着手	10 8 5 2 0			
計			20	20		
合計				100	92	

2. 判定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
	優先度がかなり高い	80点以上		
	優先度が高い	60点以上~80点未満		
	優先度が低い	60点未満		